

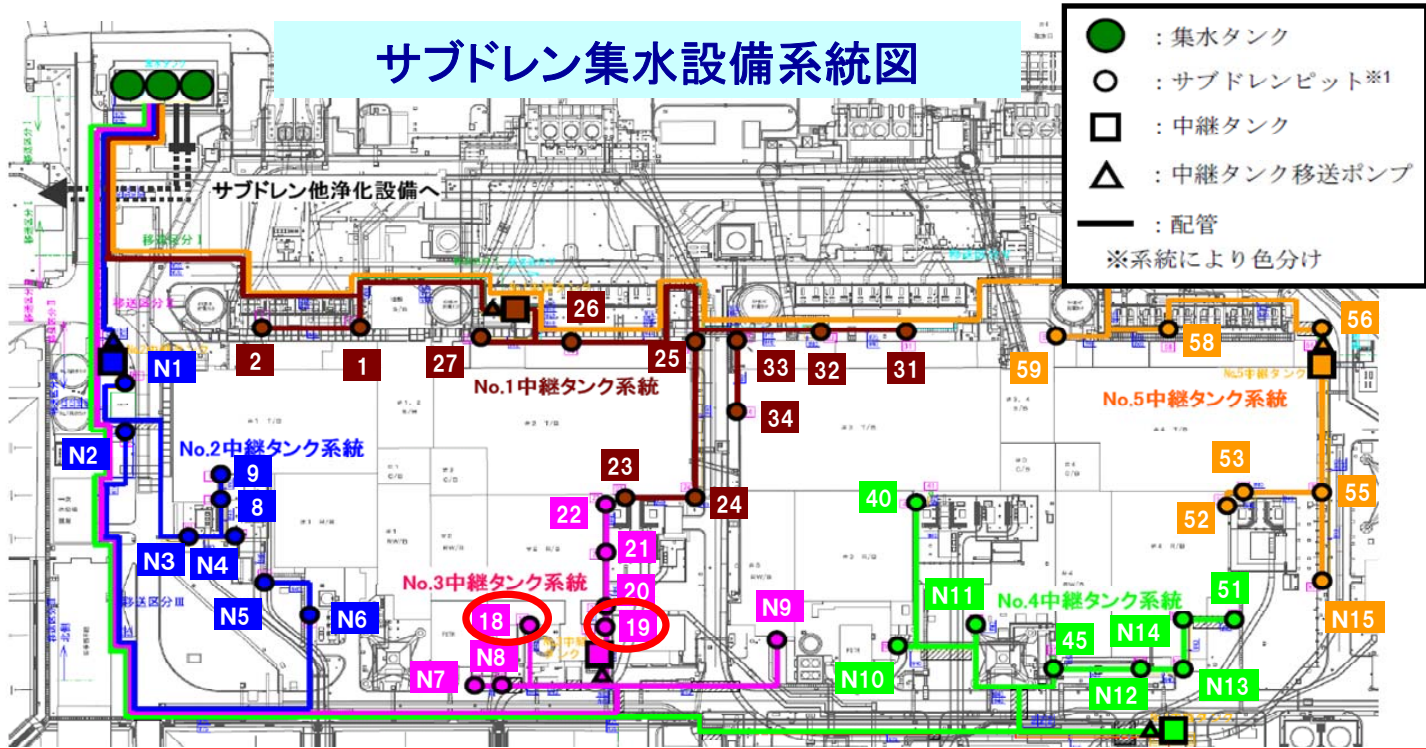
# 2号機西側サブドレンの放射能濃度上昇について

■サブドレン水処理施設の運用に先立ち、汲み上げ対象の全ピットの水質状況の把握を10/22に実施した。調査の結果、2号機西側No.18, 19において、セシウムおよび全βの濃度が上昇していることを確認。

(単位:ベクレル/リットル)

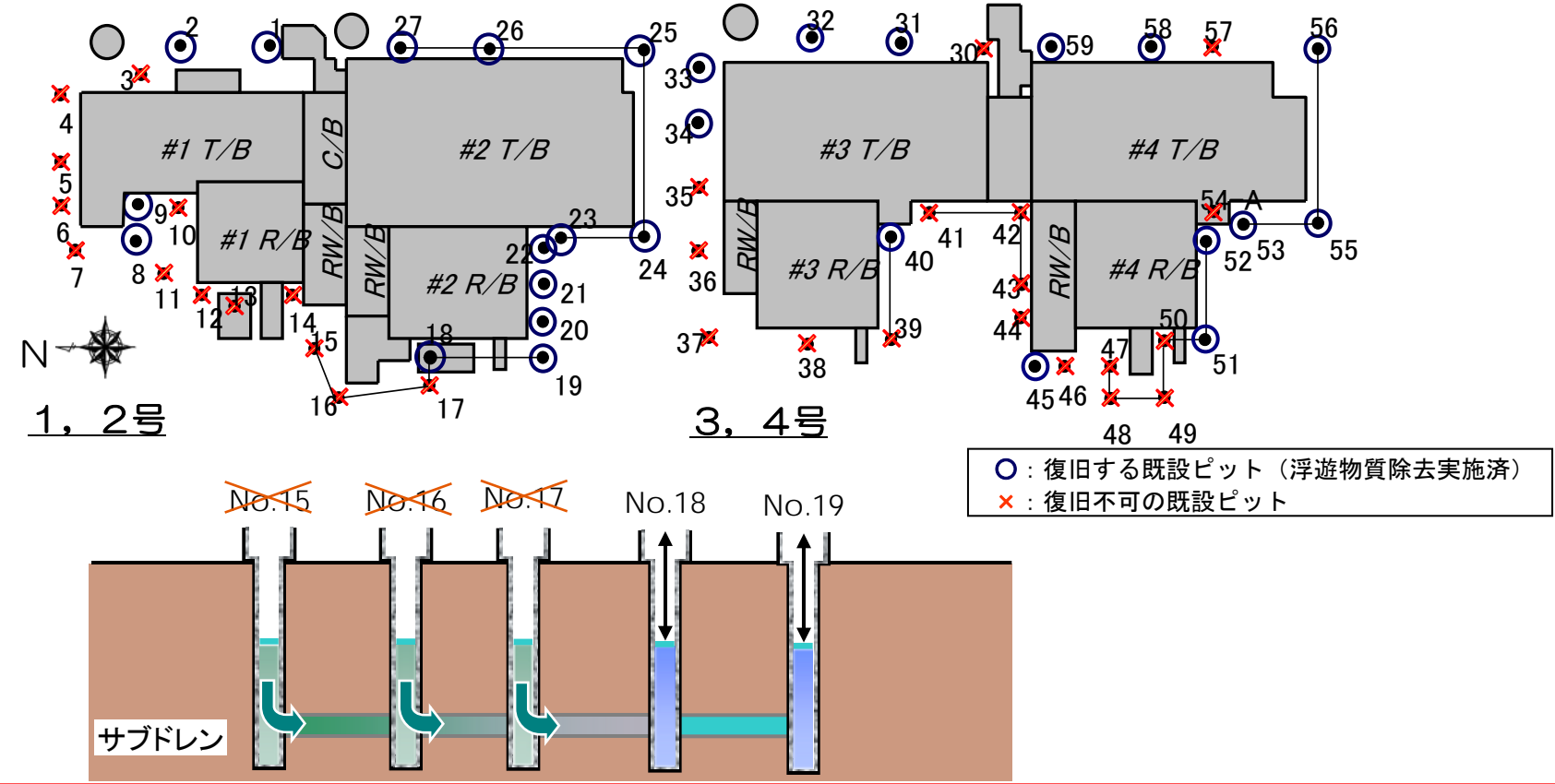
ピット	セシウム134	セシウム137	全β	トリチウム
No.18	94,000 (140)	330,000 (340)	390,000 (690)	6,800 (3,200)
No.19	100,000 (150)	360,000 (350)	390,000 (490)	8,000 (2,700)

※括弧内は昨年末(H25/11~12月)の水質調査結果。



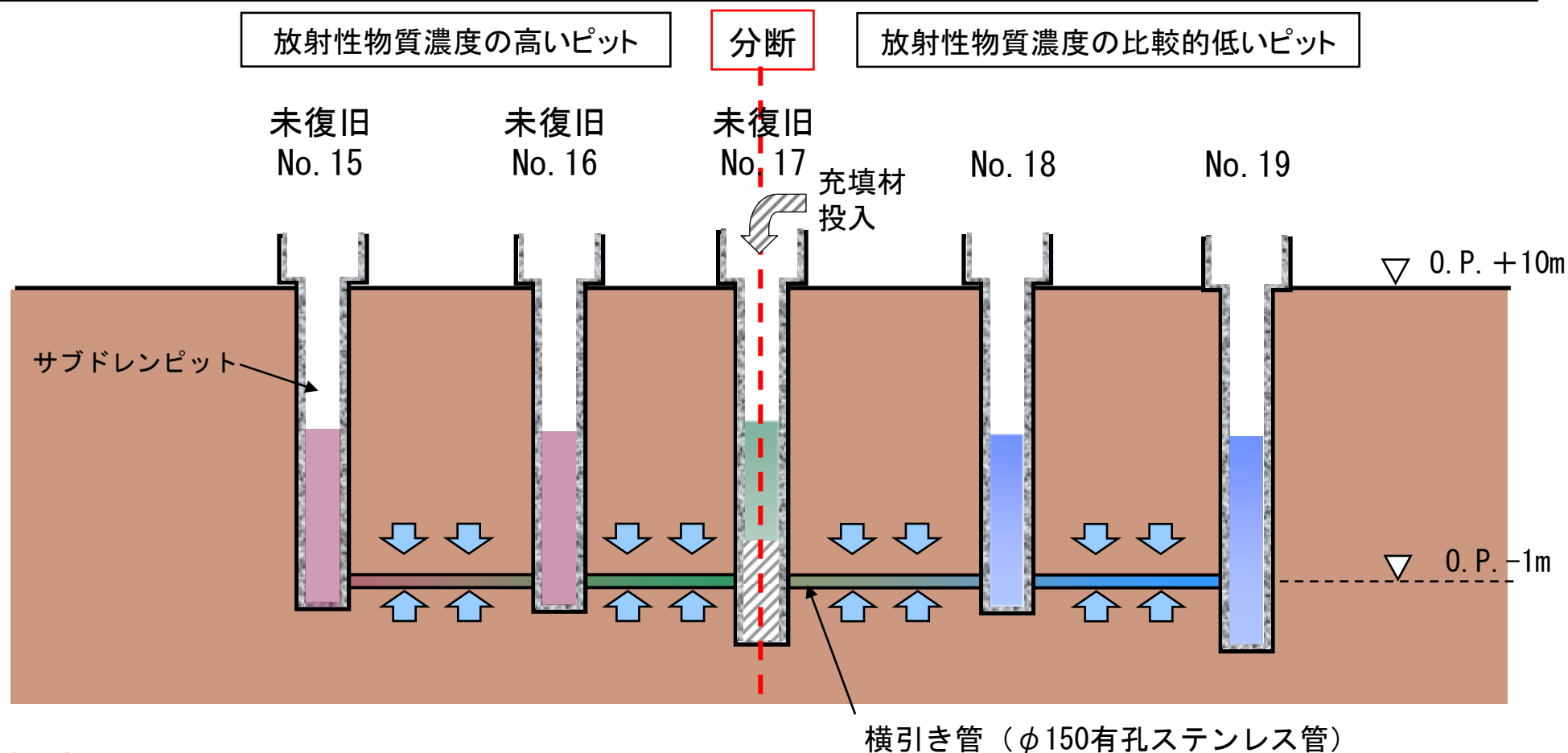
# 放射能濃度上昇の要因について

- 昨年末の水質調査結果から、Cs137の濃度が3桁上昇しているが、H3は変動が少ないことから、地下水からの移行ではなく、フォールアウトによる汚染が混入したと考えられる。
  - いずれも建屋より山側に位置しているが、地下水位は建屋滞留水水位より十分に高く、建屋滞留水が山側に逆流したとは考えられない。
  - 他のピットも水質調査を進めているが、同様の放射性物質濃度の上昇は確認されていない。
- No.18とNo.19は、高線量等で復旧が困難であったNo.15, 16, 17とピット底部で横引き管で連結しており、ポンプ稼働により、**No.15, 16, 17から放射性物質を徐々に引き込んだと考えられる。**



# No.18, 19放射性物質濃度上昇への対策

- No.15～No.19ピットは、横引き管(φ150有孔ステンレス管)で集水する構造であり、ピット側面からの集水機能は無い。
- 比較的放射性物質濃度の低いNo.17ピットに充填材を投入し閉塞(11/14～21実施)することにより、未復旧ピット(No.15, 16)と復旧ピット(No.18, 19)を分断。



# No.17ピット閉塞状況



充填材(可塑性グラウトモルタル)プラント設置状況

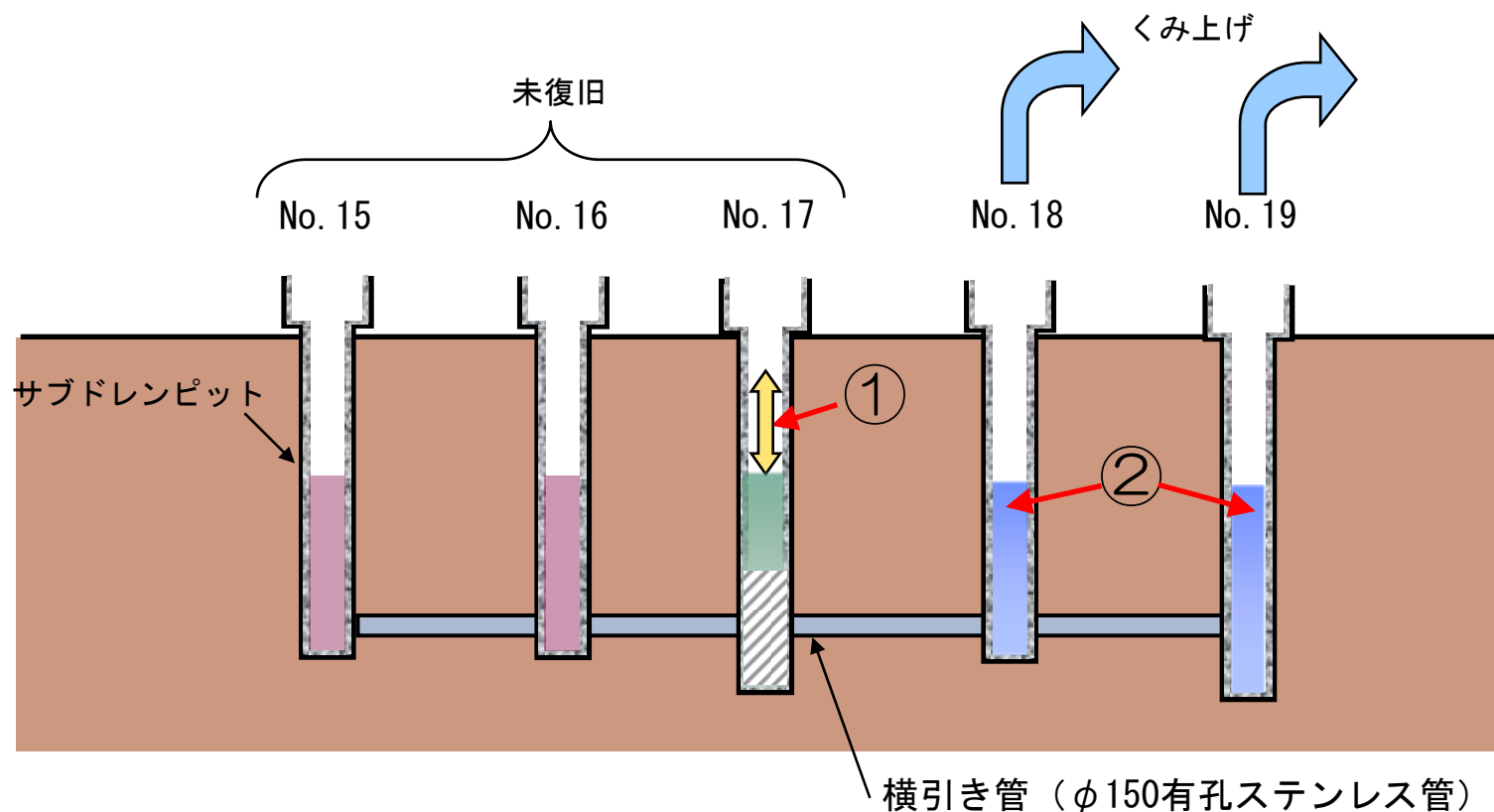


充填材打設状況

# No.17ピット閉塞による分断効果の確認

●No.17へ充填材を打設した後、No.18, 19ピットから地下水を汲み上げ、以下の確認を行うことにより横引き管の閉塞確認を実施。

- ①No.17ピットの水位低下がないこと。
- ②No.18, 19ピットの放射性物質濃度が徐々に低下すること。





# No.17ピット閉塞による分断効果の確認結果

■ No.18, 19ピット内および横引き管内の溜まり水の量(約25m<sup>3</sup>)を上回る地下水の汲み上げを2回実施。

- 1回目(11/27~28) : 30m<sup>3</sup>(15m<sup>3</sup>/日×2日)
- 2回目(12/2~3) : 30m<sup>3</sup>(15m<sup>3</sup>/日×2日)      合計 60m<sup>3</sup>

## ①No.17ピットの水位確認

11/27と11/28に、No.17では、ピット上面から約2.1m下で水位が変動しないことを確認した。(No.18, 19のくみ上げ開始前、開始後30分、くみ上げ終了時に水位を確認)

## ②No.18, 19ピットの放射性物質濃度確認

下表のとおり、No.18, 19ピットのくみ上げ水の濃度低下傾向が確認できた。 (単位:ベクレル/リットル)

採取日	No.18				No.19				
	セシウム134	セシウム137	全β	トリチウム	セシウム134	セシウム137	全β	トリチウム	
10/22	94,000	330,000	390,000	6,800	100,000	360,000	390,000	8,000	(閉塞前)
12/1	2,600	9,500	12,000	1,000	5,100	18,000	23,000	2,000	(閉塞後)
12/3	1,300	4,600	5,500	1,000	1,700	6,000	7,400	1,700	

# 今後の予定

- No.17の閉塞による分断が確認できたことから、No.18, No.19については、サブドレン他水処理施設のくみ上げ対象ピットとして活用する。
- No.17のピット内残水のくみ上げとピット充填、並びに、高濃度の放射性物質が確認されているNo.16の水質改善の為のくみ上げを、今後実施する予定。